

第2回 令和6年度使用教科用図書加古川採択地区選定委員会 議事録

1 開会

2 会長あいさつ

3 報告事項

- ・教科書展示会について

4 協議

(1) 令和6年度使用小学校教科用図書の選定について

会 長：二市二町合同での調査員会班長からの報告と事前に事務局から送付された展示会での来場者アンケート等を参考に、協議をお願いいたします。

協議に入る前に確認ですが、第1回の選定委員会において事務局から説明がありましたが、皆様から、出版社ごとに付された意見をまとめ、選定委員会報告書を作成することとなっております。

出版社ごとにご意見をいただきながら進めていきたいと思います。私としては、教育委員会への報告の関係もありますので、委員の皆様から、どこを推薦するのか意思表示をしていただきたいと思います。ただ、教科によっては、2社しかない場合もありますので、挙手するよりはご意見の中で、「この出版社がよい」という意思表示をいただければありがたいのですが、皆様いかがですか。

(異議なし)

会 長：それでは、調査員会から報告いただいた順に、協議にうつります。

①社会科教科用図書の選定について

会 長：まず、「社会」です。出版社ごとにご意見をお願いいたします。

東京書籍についていかがでしょうか。

会 長：では、まず私からよろしいでしょうか。東京書籍では、3年生の社会科導入段階において、明石市が取り上げられています。これは後ほどにはなりますが、同じ単元で他の教科書は姫路市が取り上げられており、これも身近であります。もう1社は横浜市を取り上げているんですね。やはり身近な明石市が掲載されていることで、子どもたちにとっても親しみやすく、教員にとっても授業が進めやすいのではないかと思います。また、上巻、下巻の2冊に分かれているところが、荷物の重さに配慮されていて良いと感じました。

委 員：同じ視点で言うと、加古川市の写真も数点掲載されている箇所があります。

やはり子どもにとっては、身近であることでイメージしやすくなる部分があります。

委員：私は東京書籍が良いと感じました。教科書全体を通して、構成がよく整理されており、分かりやすいと感じました。

委員：子どもたちが見通しをもって学習に取り組めるよう工夫されていると思います。そういった意味で、東京書籍が採択にふさわしいと感じました。

委員：私も東京書籍がふさわしいと感じました。全体を通して写真や資料が見やすいと感じました。また、キャラクターが登場しているところが親しみやすいと感じます。

委員：身近な東播磨地区が掲載されていることで、子どもたちにとっても親しみやすくなっていることに加え、思考を促す学習が大切になってきている中、資料やグラフが読み取りに適したものとなっていると思います。私も東京書籍がふさわしいと感じました。

会長：北方領土など領土問題の取り扱い部分が、読みやすく理解しやすいと感じました。

会長：他にいかがでしょうか。

東京書籍については、その辺りでよろしいですか。

会長：続いて、教育出版について、いかがでしょうか。

委員：先ほど話題にもあったように教育出版は、3年生の最初の単元で横浜市が取り上げられていました。子どもが帰宅した時に、学校でのことをよく話すのですが、やはり遠い地域よりも身近な地域の方が話も膨らみます。他社と比較した際に最初の単元でそのような違いを感じたため、印象に残っています。

委員：確かに身近なところが取り上げられていた方が良いという部分はあるのかもしれないですが、教科書全体を見た時に、対話的な学びを重視して作られていることは感じます。また、命のビザの杉原千畝や外交官のエピソード、沖縄県知事の島田叡が取り上げられていることも特徴的だと思います。また、これは賛否両論あると思いますが、モノクロの写真がA Iでカラーに加工されているんですね。例えば、岩倉使節団や原爆ドームなど、本来は白黒の写真であるものをカラーに加工しています。これは教育出版の1つの特徴かと思います。調べたところ、出版社としては子どもたちにとって分かりやすくしているとのことでした。私個人としては、子どもたちが誤解しないだろうかという懸念があります。

会長：なるほど。私が身近に感じる部分としては、NHKのアナウンサーが取り上げられており、次の日本文教でも加古川市出身のアナウンサーが出てきますが、親しみやすいと感じました。

会長：教育出版について、他にご意見ございませんか。よろしいでしょうか。

会 長：最後に、日本文教について、いかがでしょうか。

委 員：先ほども話題にありましたが、3年生の最初に姫路市が取り上げられていて、身近に感じられるのかなと思いました。

委 員：そういった視点で言うと、記載の地図の隣には加古川市も出てきているんですよ。

会 長：姫路市は地形的にも加古川市に似ているため、子どもたちにとってもイメージしやすいのではないかと思います。また、4年生の学習では岡山県が取り上げられているんです。もちろん、地域が違って置き換えて学習することも大切だと思いますが、身近なものから学習を進める良さも感じられます。兵庫県で言うと、阪神・淡路大震災も取り上げられています。総じて私は、日本文教が採択にふさわしいと感じました。

委 員：日本文教は、単元導入の際に、子どもたちに関心を持たせたり、考えさせたりする仕組みが効果的に設定されているなど感じました。また、SDGs、コロナ差別、コラムにはなりますが子どもの権利条約など、現代的な課題を取り上げている部分についても評価できると感じました。それから、史実について意見が分かれているような部位については、「今日も議論が続いている」というように記載されていて、その辺りは配慮されていると感じました。

会 長：社会に関して、他にご意見がございませんか。
推薦の意思は、他にごございませんか。

②地図教科用図書の選定について

会 長：では次に、地図に移らせていただきます。まず、東京書籍についていかがでしょうか。

委 員：東京書籍は、日本の伝統文化について記載がよく分かるように構成されていると感じました。ただ、これは私の印象にはなりますが、地図を見やすくするための工夫であると思うのですが、原色で濃い配色が使われているので、どうしても色味のきつさを感じてしまいます。

委 員：私も色の濃さは気になります。ただ、地図の見方や使い方についてはきちんと押さえられているなという印象を持っています。

会 長：教科書と地図において同じ東京書籍が選ばれるとすれば、引用などもあり分かりやすいのかなとも思うので、そういう意味ではよい部分もあるかと思います。ただ、情報がやや多すぎるようにも感じました。

会 長：他にご意見はございませんか。

会 長：では次に、帝国書院についていかがですか。

委 員：私は、土地の高低差が色合いで分けられていて見やすいなと思いました。

会 長：私も、色合いの見やすさについては感じたところです。それから、3年生

段階で地図帳の使い方、調べ方、索引の見方がきっちりと教員が説明できるように作られているなと感じました。また、鶴林寺、平荘湖、権現ダムなど加古川に関する記載が多いので、子ども達も身近に感じられるのかなと思いました。

委員：歴史と関連する場所も地図の中に記載されているので、これは6年生の歴史で使用する際にも使い勝手が良いなと感じました。それから、日本のエネルギーや工業についての記載の部分、これもしっかりとまとめられているので、ひとつの特徴かなと思いました。また、世界遺産、災害に関係する場所についての記載が多くあって、様々な問題について教科横断的な学習ができるように意識して作られているのかなと思います。そういった意味で、私は帝国書院を推薦します。

委員：私は、排他的経済水域が見やすく記載されているなという印象をもちました。私も同じく帝国書院を推薦します。

委員：私も色合いもそうですし、社会でもそうですがやはり身近な場所が取り上げられているというのは子どもたちにとっても興味を持ちやすいと思います。私も帝国書院が良いと思います。

会長：他にご意見はございませんか。推薦の意思はございませんか。

③理科教科用図書の選定について

会長：それでは、次に理科にいきたいと思います。

委員：理科につきましては、東京書籍は実際の大きさが書いてあって、写真がとても分かりやすいのと、ワクワクする子どもの表情がたくさん載っていたので、東京書籍が良いと思いました。

会長：表紙に人物がドンっと映っていましたよね。教科書を見比べて、人物本位で作られていると思いました。

委員：特に植物の写真は非常にわかりやすい写真が多かったように思いました。教科書の作りは、予想、実験、考察、まとめという問題解決的な学習過程、流れが意図して示されているので、やりやすい形かと思いました。あと、防災に関しての取り上げ方が充実していると思います。

委員：調査員の方も今日の報告の中で、大事なことを言われていました。授業をやりやすいということは良いと思うんですけど、実験の書きぶりは東京書籍が一番。無駄なことが書いていないのと、先生たちがどこまで教えたら良いかということも追記されているのが良いと思います。

会長：では、大日本図書はいかがでしょうか。

委員：「理科のたまてばこ」という項目があって、子どもたちが本当に興味関心を持つような話があります。特に、3年生の中でも「雑草という名前の植物はありません」では、一つ一つの植物には、ちゃんとした名前があります

よということが分かって、非常に面白いなと思いました。写真も大きくてわかりやすいのですが、理科の観察とか実験の中では安全性というのが大事だと思うんですけども、注意を書いてあるところが、赤字にはなっているんですけど、本文より小さい字になっていました。そこは逆の方が良いと感じました。また、多様性を意識した作りになっていて、評価できるなと思いました。

会 長：唾液を直接ストローで注入するという、昔はそういうことをやっていました。今はコロナウイルスがありまして、各教科書会社が慎重になっているかなと思いますね。

会 長：では、続いて学校図書に関してはいかがでしょうか。

委 員：学校図書に関しても、問いがあって、観察、実験があつてまとめという問題解決的な学習になっていて、やりやすい、子どもが考えやすいと思います。また、薬品を扱うときの注意、対処方法がイラストで明示されていて、安全に配慮するという点では、評価できると思います。ただ、5年生の天気学習がありますが、他の出版社は、天気の移り変わりというのを勉強して、台風という流れになるんですけど、この出版社だけ逆の流れを取るんですね。子どもたちの理解からすると、台風という特別なものから入ってしまうのがどうかなという感じがしました。

会 長：私もそれ、3年生で感じました。チョウが出てくるのが遅かったのは、シーズンを捉えきれてないのかなと思いました。他社と違った配置をして、特徴を出そうとしているのかなと感じました。それから、文字が全体的に小さい気がしましたね。子どもにとっては、やはり小さい文字は読むのに、特に低学年はエネルギーがいります。教科書全体が小さかったから、そうならざるを得なかったかもしれません。

会 長：他は、よろしいでしょうか。それでは、教育出版をお願いします。

委 員：「写真をとってみよう」という項目が出ていたんですけど、「写真をとってみよう」って、学校でどうやって教えるんですか。

委 員：chromebook ですね。一人一台配られているので、町探検や学校探検の時など持って行っていきます。

委 員：理解しました。スマホを持ち歩くのかなと思い、その項目は無しじゃないのかなと思っていました。ありがとうございました。

委 員：低学年から一人一台持っています。

委 員：教育出版は、特に予想する場面、考察する場面で対話的な学びを意識するようになっています。理科の学習がつながっているような部分を単元のはじめに入れることで、理科に系統性を持たせています。中学校とのつながりというものを書かれているところもあり、評価をしました。ただ、3年生からスタートということを感じた時に、植物だったり、生き物だったり

の写真はやっぱりもうちょっと大きく、インパクトのあるものにしてほしい。子どもたちが調べてみたいな観察してみたいなと思えるように、そこはちょっと物足りないなと思いました。

会長：逆に臓器は、人の体の実物大の大きいのが入ってましたね。あれは「おお」と目を引きました。調査員の報告にもあるんですけど、それは思いました。

委員：私はどうしても自分が理科の教員だったので、どういう内容をもって押さえるのかなと思って見ました。てこがすごく難しいと思って。教育出版は、てこを使うと、すごく力が簡単になるんだよというのが一番子どもには分かりやすい。最初の小さな力で大きな力ができるんだな、というのは良いなと思いました。

委員：安全の手引きが別冊になっていて、子どもたちにとって良いと思いました。

会長：次に行かせてもらいます。啓林館についていかがでしょうか。

委員：啓林館については、予想をして、計画を立てて、考察するという流れで非常に多様な考えを出し合う、対話的な学びが意識されている構成だなと思いました。加古川市が今取り組んでいる協同的探究学習で、やりやすい場面があるなと感じました。「くらしリンク」のページがあって、そこに日常生活とのつながりが示されているのが非常に面白かったと思います。5年生で、日本の四季を感じられるとても美しい写真があって良いなと思いました。あと、理科室を使用する際、いろんな薬品を扱ったりするんですけど、「理科室の約束」というのが示されていて、実験の注意というのが書いてある。その中で、「わかっているつもりでも確認」というのがあって、習っていても再度確認するという意識を持たせるという意味でも、非常に良いなと思いました。私は啓林館が良いと思いました。

委員：安全性に関しては、啓林館は、注意することや伝え方が本当にわかりやすいなと思いました。兵庫県南部地震のことも書かれている。この地域での大切な学びが書かれていて、私も啓林館が良いと思いました。

委員：自分が授業するとしたら東京書籍が良いです。啓林館は、少し情報量が多い。てこの実験で比べてみて、大学生に授業を考えさせたりするときに、このままでは授業できないんですよね。教科書を使って授業することを考えて、てこというのが実感を伴ってしないといけないのが、導入でとなると東京書籍の方が整理されているのかなと思いました。

会長：選定委員それぞれの意見が尊重されますので、ご自身の意見をお願いします。

委員：見る視点が全然違ったなと思って、自分だったら、どれがしやすいかなと思って見ていました。

会長：表紙をめくったときに、3年生で大きなナナホシテントウが出てきてるんですよ。4年生はシャボン玉でしたし、5年生は空中に浮かぶ電球という

ような興味をそそられるような写真が使われている。コウノトリとか兵庫県南部地震を取り扱っているというところで身近になるのかなと思いました。私も啓林館を推薦したいと思います。

委員：別の視点からのご意見を頂戴すると、どうしても私は子どもにとって見やすいという状態でしか見てないので、教えていただく観点からするとちょっと変わってくるのかなと頭にあって、今せめぎ合っています。自分自身では全部に目を通したんですが、やっぱり一番わかりやすいのかなと思っていたので、そのあたり評価をしていたんですけど、「そっか」という新しい発見というか…。

会長：それは正直な意見でいいと思いますね。では、理科に関して他に意見はありませんか。推薦の意思は他にございませんか。

④生活科教科用図書の選定について

委員：まずは1年生にとって重要であるスタートカリキュラムが充実しており良いと思います。それと生活科では、ある定点観測といった同じ場所の移り変わりを見ていく、季節の移り変わりや植物の育ちといったものを見ていくという意味では、同じ場所の移り変わりをきちっと見ることができるよう工夫がされている。校外に行くにあたって、イラストや写真を通して活動時に気をつけることが具体的に書かれていました。そのような意味からも、東京書籍が良いと思いました。

委員：私も同じく、主体性が見受けられるので、とても良いと思います。

委員：1年生が見るときに、楽しんで見ることができるだろうなと思います。1年生は幼稚園からの繋がりが重要なので、スタートカリキュラムが充実しているなと思いました。デジタルコンテンツも充実しているなと思いました。

会長：よろしいですか。続いて大日本図書をお願いします。

委員：1年生になって初めて生活科を勉強する。そして、生活科を活動や体験を通して学んでいくことを考えると、イラストで結構描かれていることが多いなという印象を受けました。1年生の初めの部分は、子どもたちの活動意欲を高めるという意味からも写真を使ってほしかったなというところがあります。あと、秋の変化を見るところだと思いますが、カラーではないんです。これは恐らく、どう変わったか考えてみましょう、見てみましょうという設定になっていると思います。「春に遊んだ公園」というセリフを子どもが言うことで場所を暗示するようなモノクロ写真ですが、果たしてその意味合いを理解できるのかと思うところが少しあります。せめて横に春の写真があって、今はどうなったかなという作りの方が、子どもたちはイメージできるのかなと思いました。ちょっと残念だなと思いました。

会長：表紙の緑が大変濃かった。加古川市ではなくて関東地方の風景かと思いました。

した。加古川市にはそぐわないかなと思いました。

会 長：よろしいですか。では、学校図書をお願いします。

委 員：学校図書に関しては、スタートカリキュラムというよりも小学校生活の流れを示しているようなスタートをしているなと感じました。その中に1日の学校生活が幼児期の遊びとどう繋がっているか図や絵で示していますが、構成についてははっきりと分かる方が良いと思いました。安全面に関して、○×で確認できるようになっていて非常に指導としてはやりやすい、子どもにとっても明確にわかりやすくなっています。それと「道に迷って困ったときには周囲の大人に知らせればよい」と書かれていたので、そういった意味では想定できる危険を回避できる方法を意識していると思いました。

会 長：1年生よりも2年生の方が、キャラクターが成長しています。そこがこの教科書の良いところだなと思います。同じ場所に立っていても違う姿になっています。

会 長：では、教育出版についてはどうでしょうか。

委 員：写真やイラストともに多様性を意識した作りになっているなという印象です。特に、写真は大きくて、子どもが興味をもつような写真が多く、カレンダーがありましたが、季節の移り変わりがよく分かる写真になっていました。ICTについてもマナーという部分については評価できるなと思いました。教育出版は迷路をたどるような作りになっているんですが、少し見にくいというか、混雑している感じがしました。

会 長：車椅子の子がいたり、外国の子がいたり、多様性を意識したのかなと思いました。風景も春、夏、秋、冬とイラストが対比されていると思いました。ただ、これも加古川市の風景にあるかなと思い、あまり身近ではないかなと思いました。写真は大変多くて魅力あるものが多かったので、それは良いところだと思いました。

委 員：「みんななかよし」「なかよしひろがれ」というのが、この教科書の望んでいるもの、ゴールとして目指しているものだというのが伝わってくるなと、良いなと思いました。

会 長：光村はいかがでしょうか。

委 員：アンケートでもヨシタケシンスケを使っているとありました。私は好きなのでとても良いですが、あまりこれにイメージがない人にとってはどうかかなと思います。先生はご存知でしたか。

会 長：調べました。

委 員：すごく人気のある方だから、知ってる人は「知ってる！」となるけど、そこは繋がるのかなと思いました。

会 長：大変面白いイラスト、そしてイラストだけでなく、言葉も書いているんですよ。だから大人というか母親にとっては大変受けるのかなって思いま

すね。ただ、子どもにとってはどうかと思います。内容的にはかなり多くて、ごちゃごちゃしている感じがします。ページ数が多いですね。他のものとは毛色が違うというか。そういった感じを受けました。

委員：光村図書の場合、下の方に、「保護者の皆様」へという欄が設けられていて、そこは大きく意識して作られた影響かなと思いました。やはり生活科はスタートカリキュラムが大事ですが、イラストから考えられるような作りになっています。それは良いと思いますが、若干難しいかなと感じました。「季節の仲間たち」では鮮明な写真が多くて、図鑑の役割を果たしてくれるのかなと感じました。

委員：小学校では「季節の仲間たち」は使えそうな感じですか。あったら良いかなという感じですか。

委員：絶対あった方が良いというものではないです。

委員：そこを省いたらランドセルが軽くなりそうですね。

委員：他の出版社ではデジタルコンテンツとして出しているところが多いですね。

会長：続いて啓林館です。いかがでしょうか。

委員：スタートカリキュラムが充実しているなと思いました。手洗い、うがい、そして換気についても書かれているところもあり、感染症対策を意識しているなと思いました。表紙や目次にインパクトのある写真が多くて、子どもたちの興味をひく、活動意欲を高めるには効果的だなと思いました。

会長：私は啓林館を推したいと思います。東書も良いなと思いました。加古川市消防もありますし、情報が多すぎないというのが良いなと、すっきりしているなと。光村と比べても情報量がだいぶ違うなと思いました。県の資料もたくさん扱っていますので、これを推したいなと思いました。

会長：生活科について他にご意見はありませんか。推薦の意思は他にございませんか。

⑤体育科（保健）教科用図書の選定について

会長：まず、東京書籍についていかがでしょうか。

委員：写真やイラストが丁寧にまとめてあり、分かりやすいと思いました。

会長：調査員が言われていましたけれども、しっかりと教えなければならない部分を比較した時に、例えば4年生の「思春期の体の変化」や6年生の「薬物乱用」のところの扱いを見た時に、きちんと正面から取り組んでいるなという印象を受けました。だから私は、東京書籍を推薦したいと思います。

委員：東京書籍については、ストレスマネジメントの記述が充実しているなと思います。それから、犯罪被害の防止というところの中に、インターネットによる部分も取り上げられているのも非常に良いなと思いました。自分の考えを書かせる場面が東京書籍は多いので、そこがちょっと気になるなと

感じました。もちろん書くことは大事なんですけど、私は若干多いなと感じました。

会 長：推薦の意思はありますでしょうか。

委 員：私は先ほど言ったようなことから東京書籍が良いと思います。

会 長：他に意見はございますか。それでは次に、大日本図書についてお願いします。

委 員：喫煙や薬物を取り上げているページでは、イラストが用いられているところが多く、視覚的に訴える部分が弱いかなと思いました。ただ、「自分と友だちの良いところ」という学習があるんですけど、そこは非常に効果的に自分らしさを感じたり、成長を感じたりという意味ではよくできているなと感じました。

委 員：性の多様性というところで、LGBT が取り上げられているところは良いところだと感じました。

会 長：続いて、大修館書店について、いかがでしょうか。

委 員：ストレスの緩和やマネジメントの記載が充実しているなと思います。あと、スマホ依存が取り上げられていて、小学生からスマホに関してはかなりの割合で持っていますので、そういう意味では良いなと感じました。一方で、性の多様性の部分については、もう少し記載をしても良かったのではないかと感じています。

会 長：よろしいですか。それでは文教社についていかがでしょうか。

委 員：混合名簿だったりとか、ランドセルの色だったりとか、多様性を尊重する教科書の作りになっているなと感じました。ただ、スマホや SNS の被害などの記載が少ないなど。今は本当に、小学校の特に高学年のトラブルで SNS 絡みのものが非常に多いので、そこは取り上げてほしかったなという部分があります。文教社の場合は、自分の考えを書く場面が非常に少ない、少なすぎるというところがあります。保健の学習は年間の時数も限られている中、ノートを用意するというのは現実的でないし、全てワークシートを用意するのかという難しい面もあったりするので、そういった意味でもう少し書く欄があっても良かったのかなと感じました。

委 員：保健ではノートは使わないで、教科書を見て書き込むのが一般的ということですか。

委 員：一般的かどうかは分かりませんが、保健は毎週 1 時間ある勉強ではないので、学期末に固まって授業されることも多い中、それ専用のノートを作っているという学校は少ないのではないかなと思います。

委 員：なるほど。これこそ、おうちに持って帰っておられないのではないですか。

委 員：そうですね。

委 員：ずっと学校に置いてあって、家で勉強するという機会が少なく、親御さん

が目にする機会が少ないと思いますが、これこそ親御さんが一緒に目にした方が良くもしいないなと思いました。

委員：そうですね。

委員：事実、なかなか目を通すことがなくて、この度初めて見たんですけども、さきほど報告にも挙がっていましたが、薬物の実物の写真が入っていないというのが、この会社に関してはちょっと大きいですね。子どもたちは写真を見て初めてはてなマークが出るわけで、全く見てないものであれば、「これは大丈夫だ」という判断になりかねないので、そういうところはきちっと写真が欲しいかなというのは、この会社に対して思いました。

会長：では続いて、光文書院についていかがでしょうか。

委員：光文書院のひとつの特徴として、相談できる子どもというか、「何かあった時には相談すればいいんだよ」というメッセージが伝わってくる作りになっていたと思います。例えばスクールカウンセラーとか、栄養教諭とか、子どもたちの心と体の成長に関わる人たちの紹介であったり、公的機関の相談窓口の紹介であったりと、心の健康を意識したつくりになっていると思います。また、犯罪被害のページでは、インターネットトラブルについて取り上げられているのが良いと思っています。学習自体も課題がつかみやすい構成になっていましたので、私は光文書院を推薦したいと思います。

委員：今言われた心の健康という部分については、必要と言われながらも系統的にどの教科で教えていくかという部分はひとつの課題になっていたと思います。特別活動というよりも教科に入れていくとしたら保健かなと思っていたので、その部分を丁寧に扱っているところが良いと思いました。

委員：私も光文書院が良いと思っていて、全体的に教えた後のフォローの部分についても書かれているので、子どもたちに何かあったらというところが他とは違うのかなと思っています。そういった意味で光文書院を推します。

会長：ありがとうございます。

会長：先ほどご発言の委員も光文書院をご推薦ですか。

委員：はい。私も光文書院が良いと思っています。

委員：私も光文書院かなと思っています。性に関する記載もそうですし、相談の部分もそうなんですけど、心と体の健康のこととか、運動のことだけではない普通の生活、例えば睡眠のことなども書かれているので、自分の生活習慣を見直すことにつながる作りかなと思いましたので、光文書院が良いかなと思います。

会長：今までとは違う部分についても踏み込んで書かれているという部分は、確かにありますね。

会長：では学研について、いかがでしょうか。

会長：今回も、先ほどまでに言われていたように、薬物乱用のページでは実物の

写真がないんですよね。トラブル防止を考えると、児童がイメージしにくいというところはあると思いますね。

委員：もちろんそういう部分はあると思います。ただ学研では悩みへの対処という面では多く取り上げられているということと、インターネットのトラブル防止について、タブレットを使う時の注意などが取り上げられていて、そういった部分は充実しているなと思います。

会長：現場で一番頭を痛めている部分だと、先ほどもおっしゃっていましたね。

会長：それでは体育（保健）に関して他に意見はございませんか。推薦の意思はございませんか。

⑥音楽科教科用図書の選定について

会長：それでは音楽について進めたいと思います。まず、教育出版についていかがでしょうか。

委員：最初に「まなびナビ」が示されて、見開きで学習をするという構成になっていて、非常に子どもにとっても分かりやすい作りになっているというところがあります。イラストや写真がありますが、共通教材で描かれている写真やイラストというものが、もちろんもう一社の教科書にも描かれているのですが、大きさとか感じるインパクトが全然違って、3年生の「ふじ山」でも思いましたけど、そういった意味で非常に良いなと思いました。また、学びとして見た時も学習を見通すことができ、またその時間、その単元の振り返りが非常にやりやすい作りになっているというのは非常に良い特徴かなと思っているので、私は教育出版を推薦します。

委員：国歌について書いてある言葉の内容が、6年生の子どもたちと国歌について考えていくものとしては、教育出版が良いかなと。教育芸術社は、割とこうなんだよと教えているというか、一緒に考えていこうというのは教育出版ではないかと思います。

会長：教育出版を推薦するということですか。

委員：「君が代」のことだけで言うと、推薦するまでではないですけども、こんなに違うんだなと。こういうふうな書きぶりの方が、子どもたちに話をしやすいと思いました。

会長：「君が代」は、全部の学年で出てきています。「さんぽ」も全校生で歌おうって、手話をしようと。一番初めに辻井伸行さんが出てきていて、インパクトがありますね。6年生はね。私も委員さんと同じことを感じましたね。「茶つみ」の写真とか「うみ」の写真とか。とにかく雄大な自然の中で歌を歌うみたいなことを肌で感じるようなそういうところがありまして。変えてはいけないものというか、昔から歌い継がれてきたものをきちんと配列されていたというところが良かったなと。3年生はリコーダーが入って

くるので、リコーダーを常に頭を置いて並べ方が工夫されていました。学習マップというのが、きちんと整理されているのが分かりやすかったです。私も教育出版を推薦したいと思います。

委員：生活と結構身近に感じられるところがあるかなと思ったのと、音楽を、初めは音として扱ってくれるところが見られるなと思ったので、そこから楽しむとか、演奏というところじゃなくても奏でるところがあったりします。手話が入っていたり、身近に言葉に出して楽しめたりというところがあります。伝統文化の部分では、さざれ石の説明があり、言葉の意味がしっかりと書かれていました。

委員：文部科学省の示す方向性から考えると、教育出版かな。教育出版の方が、音楽を楽しむ、音を楽しむということでは良いのかもしれないと思いました。

会長：いいですか。それでは、教育芸術社はどうでしょうか。

委員：「しあわせ運べるように」が入っているのは良いなと思いました。

会長：ものすごい量ですよ。歌唱の量とか、全部学習できるのかなという量ですね。それだけ、編集者の思いが入り込んだ教科書になっているのかなと思いました。「いのちの歌」というのも入っていますし、リコーダーのことも言いましたけど、こちらのリコーダーは「よくぞリコーダーの世界へ」ということで、写真を入れて、大変分かりやすい工夫をされていました。山田和樹さんという指揮者の話も大変胸を打ちましたね。音楽好きな子を育てていける教科書だなと思いました。

委員：専門家から子どもたちに贈る言葉というような話が載せられているので、本当に音楽大好きでという子には面白いなと思いました。そういうのが、この会社の特徴かなと思いました。

会長：音楽に救われたという子もたくさんいますからね。

委員：小学校から金管バンドに入って、吹奏楽という流れの中で、全国的にとっても水準の高い地域だと思っているんですけども、そうなってくると興味を持っている子がすごく多いのであれば、後者の方が子どもたちの目を惹くのではないのではないのかと思っているのですが。そのあたりは、どうなのでしょう。地域性という意味です。日本全国の子どもという意味ではなくて、加古川市という地域性という観点からするとそういう感性が多い子どもたちが多いのではないかと親としては見ているんです。全国レベルがごろごろいる地域は稀だと思うので、小学校からそういうカリキュラムを組んでいても、子どもたちはついて来るのではないかなと思うんですよ。そういう意味合いで見ると優れていると思います。

委員：おっしゃられるように、加古川市の中学校の吹奏楽は非常に、県とか近畿を独占してもおかしくないレベルです。ただ、加古川市の中でも金管、吹

奏樂が全くないという地域も多いというのが事実です。おそらくですけども、全中学校ではない。半分ちょっとくらいという実情もある。加古川市の吹奏樂はすごいです。それは事実です。

会 長：運動部もそうなんですけどね。熱心な先生が指導するとなぜか伸びるんですよ。先生の指導力というものもありますね。そういうものが全体の空気を作っていることはありますね。

会 長：音楽に関しては、ほかにご意見はないですか。推薦の意思是、他にございませんか。

⑦外国語科教科用図書の選定について

委 員：報告の中にもありましたとおり、4技能5領域というのが、「読む・書く・話す・聞く」と「やりとり」があるが、分量や活動量などトータルで考えると東京書籍が一番良いと思います。バランスが取れていて良いですね。特に小学校では3年生から外国語活動、5年生から教科として学習しますが、英語が好きなまま中学校へ上がってくれることを現場としては願っています。そういう意味では、「書く」ばかりだと英語嫌いになってしまうので、やりとりする楽しさをしっかりと残しているというところで、バランスがとれており、東京書籍が良いと思いました。My Picture Dictionaryは単なる単語辞典という役割ではなくて、実際の会話に繋がられる、コミュニケーションに繋がられるような部分がある。東書では自分の考えたことを発信できる、表現できるような学習活動が充実しているように感じます。世界の文化に触れることができるとともに、日本の良さ、素晴らしさを発信できるような活動が構成されているのが良かったと思います。全体として東書を推薦します。

会 長：3年生から外国語活動で、そのような活動をしていて、それに慣れている指導者や子どもたちもいるので、内容もそうですが、系統立った指導方法という観点から考えても東書かなと思います。5、6年生を通じて系統立ててあると書かれてありますし、それから食文化についても書かれてありましたし、6年生のところには世界との繋がりも出てきました。だから、教科横断的なところも視野に入れていて良いなと思いました。

委 員：報告書にもありましたが、デジタル教科書の英語字幕のオンオフ機能が必要とありましたが、よくわかりませんでした。

委 員：音だけ聞かせたいときに英文が出てくると聞く方に集中できなくなるので、活動内容によって変えた方が効果があるということではないかと思います。言葉と結び付けたいとき、英文はあった方が良い。ただ、音だけを入れたいときは、英文はない方が良くと思います。

会 長：よろしいですか。次は開隆堂です。

委員：登場人物が豊かだなと思いました。海外がルーツの子どもが入っているなど、多様で色んなパターンの子どものを入れていて面白いなと思いました。

会長：ものすごくボリュームがありますね。

委員：開隆堂は会話を意識していることがわかるのですが、1ページあたりの文字数が非常に多いと感じます。Let's Check では、ペーパーとパフォーマンステストによる総括的な評価を行うとありますが、今年の全国学力・学習状況調査と似ていて、小学生にとってはどうかと思いました。中学校の全国学力・学習状況調査の小学校版という感じがして、ちょっと違うと感じました。

委員：小学校から中学校へ基本的なところで繋いでいくところですが、少し分量が多いかなと思います。

会長：県の報告によると、5年生では東書の方は99ページに対して、開隆堂は122ページあり、分厚いと思います。英語が好きな子にとってはやりがいがあり、楽しく学べると思います。反面、英語が苦手な子は苦痛な時間になると思いますね。そこはリスクになると思います。教科書を順番に見ていったのですが、分量が多いと思いました。

委員：おっしゃるとおり、英語嫌いで送り出すよりかは、興味を持たせて送り出した方が良いので。6年生の教科書は中学校みたいですね。

委員：加古川市は専科で教えている小学校は少ないのですかね。だからみなさん教科書をもとにされているのですね。

会長：では、次に三省堂はいかがでしょうか。

委員：文字の規則性と英語でどう発音するかという繋がりを学ぶことに重点を置いていると感じます。「やりとり」や「書く」活動が少なく、4技能5領域のバランスに偏りを感じます。日本や他の国の文化を知る学習が少ないなと感じます。

会長：各レッスンをユニットとして大きなくりにしており、目的をはっきりしていると思います。

会長：教育出版はどうですか。

委員：「聞く」「やりとり」が設定されている構成で、子どもたちにとっては何を学ぶかわかりやすくシンプルな構成になっています。6年生のマイブックやワークシートは子どもたちが主体的に活動できるようになっていますが、分量が少し多いと感じます。絞っても良いと感じました。

会長：小さくて教える量もそんなに多くないと物理的に感じました。見やすい絵やわかりやすいワークが散りばめられており、良かったかなと思いました。教師も英語専科でなくても、教えやすいと感じました。自分の生活から順番に学ぶことができ、系統立てて学習できるかなと思いました。大変良かった印象です。Can Do list がないですね。

会 長：光村いかがでしょうか。

委 員：3、4年生の外国語活動で学んだことの振り返りからスタートしている部分については評価できます。5年生の1年間のゴールである最終的な姿を子どもたちには明示しやすいという意味で、非常に意欲をもって学習を進められるかなと思いました。ステップ1、2、そしてジャンプと、わかりやすい構成となっていて良いと思います。日本語が多いページもあって、少しどうだろうかと思うところもありました。「やりとり」について日本語で説明している部分があって、少し日本語が多いと感じました。子どもたちは学習を真似することにより学ぶということですので、そのあたりはどうだろうかと思いました。

会 長：見通しの立ちやすい教科書だと感じました。All About Me という振り返りをするところがあり、その中に他者評価欄もあり活用できることは良いと思います。デジタルコンテンツがアニメーションとなっており、子どもたちは興味をもって取り組むことができるだろうと思いました。

委 員：シンプルでわかりやすいが学習を深めるには工夫が必要という報告がありましたが、どういうことですか。

委 員：例えば、三省堂でも同じようなことがあるのですが、シンプルな構成が故に、文章の3つ目の言葉を変えれば良いという構成だと、たくさん言葉を言っているけど実は多様な表現が出ていないことがあるということです。三省堂だと“It was～.”という中で形容詞を入れるというのがありますが、実際、子どもたちは知っている形容詞は少ない。いろんな表現ができない。いろんな意見を出すためには仕掛けが必要だったり、前の時間の工夫が必要だったりするということだと思います。

委 員：先生が子どもたちの状況に応じて工夫することも大事ですが、そのままでも良いのかもしれないなと思いました。

会 長：よろしいですか。最後の啓林館にいきます。

委 員：Word List があるのですが、かなりページ数がある。40 ページくらいある記憶があります。別冊として扱っても良かったのかなと感じました。単語とかが書かれているので、むしろ別冊の方が良かったのかなと思いました。重さなども鑑みてもそう思いました。「話す」場面は多く設定されているけれど、「やりとり」が少ないと感じました。ペアで話し合う活動は多く行われるが、そこは少ない印象がありました。めあてが書かれているのですが、小さくて目立たない印象です。もう少し大きく示したら良いと感じました。

委 員：メモするところが多い割には、アクティビティが少ないと感じました。外国語の授業で何をするのかと考えると、言い慣れたりすることに時間を費やすことが大事かなと思います。

会 長：文字が小さいと感じました。5年生の単元は他の教科書にはない毛色の単

元だなと感じました。子どもが興味をもつような工夫がされていると感じました。

会 長：外国語について他に意見はありませんか。推薦の意思はありませんか。全体を通しての意見はありませんか。

（２）加古川採択地区選定委員会報告書の作成について（事務局から説明）

会 長：先ほどの説明に対して、何か、ご意見はございませんか。

会 長：それでは、事務局で、報告書の作成をよろしくお願いいたします。
ご協議ありがとうございました。以上で協議事項終了となります。

5 連絡事項 採択日程、公表について

6 閉会